

16 編集後記

16 カナダ人物記⑩ ジェンヌ・ソープ

15 カナダ史点描/アリクシユ・コロソビアの誕生(下)

14 カナダ便り/転換期のカナダ経済・小林豊彦

13 文化行事

12 ターナー新首相・横顔と政策

10 カルチエ来航450年祭
CANADA IN NEWS

トロントの日系人社会
本田技研がカナダ進出

9 日本とオンタリオ州・進む産業協力

6 オンタリオ州の主な産業

4 産業と文化の中心・オンタリオ州

2 トピックス

ISSN 0388-1852

No. 55

1984年7月

特集・オンタリオ州



RETURN TO
BIBLIOTHÈQUE DU MINISTRE
Des Affaires extérieures
OTTAWA
1384
Ave



CAI
EA947
B71
#55 Jul.1984
DOCS

トピックス

◆新首相にジョン・ターナー氏



トルドー前首相から祝福を受ける新首相。

カナダの新しい首相にジョン・ターナー氏が就任した。

自由党は、トルドー首相の辞意表明を受けて、六月十四日から十六日までオタワのコンベンション・センターで党大会を開き、かつてトルドー内閣のもとで法務大臣や大蔵大臣をつとめたジョン・ターナー氏（五十五歳）を新党首に選んだ。ターナー氏は、トルドー氏が六月三十日に首相の座を降りるとともに、十七代目のカナダ首相に就任した。

（ターナー氏の略歴や政見については、十二ページを参照。）

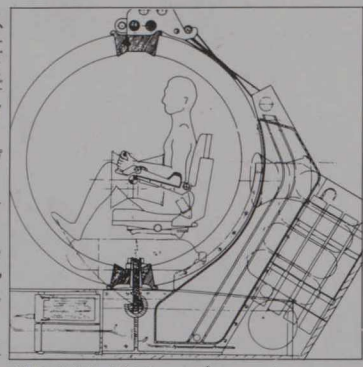
九月四日に総選挙

ターナー首相は七月九日、連邦下院議院選挙を九月四日に実施すると発表した。七月に予定されていたエリザベス女王のカナダ訪問は九月二十四日まで延期された。

◆機動的な小型潜水艇 資源探査などに威力

水深千メートル以上の海底にすばやく潜水して、海底を自由自在に動き回り、四方八方を観察し、建設作業さえもできる小型潜水艇が、カナダで開発された。

ディーブ・ローバーと名付けられたこの潜水艇は、ガラス製の丸い金魚ばちにロボットの腕を取り付けた形をしている。ハリファックスにあるキャンタイプ・サービ



海底を「歩く」ディーブ・ローバー

ス社とディーブ・オーシャン・エンジニアリング社が共同で開発したもので、直径一・三メートルの透明な半球状の一人乗り操縦室、その下に取り付けられた電池式のモーターと海底を照らす電灯、そして自由自在に動く機械の「腕」からなっており、海底での資源探査や科学調査、建設作業などに威力を発揮するものと期待されている。

◆東京にカナダ製造業協会事務所 対日進出や工業品輸出を促進

日本に足場を作ろうとするカナダ企業に代理店を斡旋したり、工業製品の対日輸出を促進するため、六月一日、カナダ製造業協会東京事務所が設立された。所長は、二十数年にわたって在日し、昨年までアンドリュース商会（東京・芝公園）の社長をつとめたモーリス・アンダーソン氏。

◆日加経済人会議が閉幕 産業協力を新しい見通し

カナダと日本の間の貿易や投資について討議する第七回日加経済人会議が、五月十四日から三日間、神戸市の神戸国際会議場で開かれた。会議は、両国から約三百六十人の経済界トップが参加、全体会議のあと、エネルギー、農水産、工業製品、観光など十二の分科会に分かれ、当面する課題について討議、最終日は分科会の意見を集約して閉会した。

今回の会議は、カナダ国内の高い失業率や日本側の輸入停滞などを背景に、カナダからの工業製品の対日輸出増大、日本からの工場進出などが焦点となった。閉会后、日本側代表・横田久生

氏（日本鋼管会長）、カナダ側代表・デビッド・カルバー氏（アルカン社社長）などによる記者会見が行なわれたが、それによると技術交流を基礎に、合弁事業など製造業分野における産業協力の展望が開けたという。その具体的な根拠として、今年三月、日本の自動車・同部品メーカーの共同出資でトロントに設立された日加自動車産業協力促進会社や、六月に開設されたカナダ製造業協会東京事務所を例にあげた。

◆BC州北東炭開発プロジェクト 六月に工事完成祝賀式

ブリティッシュ・コロンビア州北東部で進められていた、日加合同による炭鉱開発プロジェクトの工事完成祝賀会が、六月上旬、鉱山現場や新設された鉄道の操車場、石炭積み出し港などでおよそ一週間にわたってくり広げられた。祝賀式には、連邦政府、BC州政府、カナダ側の関係者のほか、日本からも日本鋼管、新日本製鉄などから多くの関係者が参加した。

BC州史上最大の産業開発で、カナダ全体でも最大の鉱山開発となったこのプロジェクトは、クイントットおよびテック・ブルムーアの両石炭会社が炭鉱（クイントット鉱山はカナダ最大の原料炭の鉱山で、原料炭・一般炭合わせて年間六百三十万トン、ブルムース鉱山は年間百七十万トンの原料炭を生産する計画）を開発するほか、

BC鉄道が新しい支線を建設し、また既設線の輸送力アップを図る。さらに、BC電力公社が全長百二十七キロの送電線を建設し、力



掘り出し現場から洗浄プラントへ延びる13キロのコンベア。

ナダ港湾公社がBC州沿岸のプリンス・ルパートに石炭積み出しのターミナルを整備する——といった、大規模かつ総合的な開発プロジェクト。投下資本総額は、二十五億ドルにのぼる。

施設はほとんどすべて完成し、すでに昨年十二月には、日本向けに石炭の出荷が開始されている。

◆東京・新木場にトームポール BC州林産業審議会が寄贈

東京都江東区にある木材の町・新木場に、ブリティッシュ・コロンビア州林産業審議会から贈られたトームポールが立てられ、五月十七日、除幕式が行なわれた。立てられたのは、建設が予定されている国鉄京葉線新木場駅の近くの広場で、日加親善と新木場の発展という期待が込められている。

トームポール（写真）は、樹齢三百年のカナダ杉（カナディアン・シーダー）にワタリガラス、熊、人間などを彫った本格的なもので、

高さは十メートル近くもある。プ
リティッシュ・コロンビア州に住
むサリッシュ族インディアンの彫
刻家ナハニー氏が、半年以上もか
けて仕上げた。



広場にはこのトーテムポールの
ほか、バンクバーの貨物業者か
ら大阪の津田産業に贈られた古い
トーテムポール、そして新木場木
材輸入業者組合が独自に注文した
トーテムポールと、三本のトーテ
ムポールが立っている。

◆◆ 寝屋川市が姉妹提携 オンタリオ州オークビルと

大阪の寝屋川市とオンタリオ州
オークビルが、四月六日、姉妹都
市となった。カナダと日本の間の
姉妹都市はこれで二十三組、大阪
では守口市、交野市について三番
目。

オークビルはカナダ最大の都市
トロントの近郊にあつて、工業が
盛ん。同市ではすでに「寝屋川通
り」を設けたり、寝屋川市の「市
の木」である桜を植えることを決
めるなど、交流に熱心。今後は教
育・文化の交流を通じて親善を図
っていくという。

◆◆ カナダ人が初めて宇宙飛行へ 今秋、スペースシャトルで

今年十月に予定されている米国の
スペースシャトル「コディスカバ
リー」に、カナダ人の飛行士が乗
り込むことになった。

第一号のカナダ人宇宙飛行士に
選ばれたのは、海軍士官のマーク
・カルノー氏(三十五歳、写真)。カ
ナダは、一九六二年に米航空宇宙局
(NASA)の協力で米ソに次い
で世界三番目に宇宙衛星(科学衛
星アルエット)を打ち上げ、その
十年後には世界で初めて国内通信
衛星を打ち上げるなど、宇宙開発
では先進国。米国のスペースシャ
トルには、カナダ製の遠隔操作装
置カナダム(「宇宙の腕」)が
取りつけられて活躍しているし、
昨年三月と六月にはカナダの通信
衛星が航行中のスペースシャトル
から宇宙に「放出」された。カナ
ダ人が外国人としては初めてのスベ
ースシャトルの乗組員
として選ば
れたのは、
こうしたカ
ナダの実績
とこれまでの米加間の協力が大き
く寄与している。



カルノー氏に続いて、来年もカ
ナダ人の宇宙飛行が予定されてお
り、無重力状態の中で的身体的反
応(「宇宙酔い」など)や順応性喪
失、スペースシャトル周辺の電界

測定、テレビカメラを使ったカナ
ダームの操作、上層圏におけるエ
ル・チコン火山の噴煙観測といっ
た実験や観測を行なう予定。

変形宇宙船? それとも大型の
「竹トロンボ」? —いやいや、これ
はカナデア社が開発した遠隔操縦
偵察機CL227。「ひょうたん」の
上部にはエンジン、下部には司令・
操作装置が入っており、中央の細
い部分に装備したコントラ(二重
反転)プロペラによってタテ、ヨ
コ自在に移転し、またホバリング
ができる。



◆◆ 日系人収容に遺憾を表明 人種差別解消に基金創立

カナダ政府は六月二十日、第二
次大戦中に日系カナダ人を強制収
容したのは不当であったとして、
公式に遺憾の意を表するとともに、
日系カナダ人の忍耐と勇気への証
しとなるよう、人種的公正のため
の基金(五百万ドル)約九億円)の
設立を明らかにした。

◆◆ またもや有望な油徴 カナダ大西洋沖で

国営石油会社ベトロ・カナダは
五月末、ニューファンドランド島

沖で油徴を発見したが、専門家に
よると一九七九年にその北東で発
見されたハイバーニア油田に匹敵
する規模だという。

最近のテストで一日五千二百バ
レルの石油が噴出し、また一イン
チ・チヨークから四百万立方フィ
ートの天然ガスが出た。関係者に
よると、日産一万バレルの石油産
出が期待できるといふ。

◆◆ 男性用避妊法 動物実験で大成功

ウエスタン・オンタリオ大学の
ジョン・ウィーブ教授は、このほ
ど、一〇〇パーセント確実で、し
かも全く副作用のない男性避妊法
を発見した。

まだ動物実験の段階だが、成功
すれば人間の避妊手術に代わるだ
けでなく、ベットなどの避妊にも
大きく役立つものと期待されてい
る。

ウィーブ博士によると、ある分
子をオスのねずみに少量(約四百
十マイクログラム)与えたところ、
精子の製造が完全に止まった。精
巣にこの分子を一回注入するだけ
で、一〇〇パーセントの避妊効果
が表れたという。ホルモンや性的
活動などには、何の影響も見られ
なかった。

人間やその他の動物にも効果が
あるかどうか、また一定期間後、
その効果を消す——すなわち生殖
能力を回復できるかどうかを確認
することが、今後の課題。

◆◆ カナダ向け日本車輸出 今年度は十六万六千台に

カナダ、日本両国は、一九八四
年度のカナダ向け日本車輸出自主
規制台数を、昨年度より一万三千
台多い十六万六千台とすることで
合意に達した。これは、同期間
におけるカナダ国内の乗用車市場を
九十一万七千台と見込んで、その
一八パーセントを規制台数として
割り出したもの。

リーガン国際貿易大臣によると、
前回の合意以来、カナダ自動車の
市場は一八パーセント以上も伸び
た。その傾向はその後も続いている
ことから、今年度の販売台数は
九十一万七千台をはるかに超える
可能性がある。

そのため、来年一月には状況を
みて、良ければ日本車の輸入を十
七万四千台まで引き上げるといふ。

◆◆ つくば博にカナダも参加

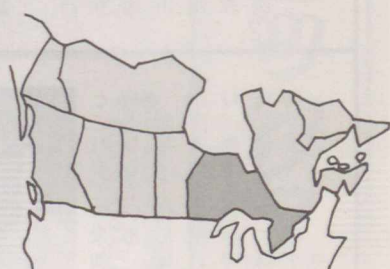


来年筑波学園都市で
開催される科学博覧会
にカナダも参加するこ
とになった。

参加の具体的な内容はまだ発表
されていないが、「人間・居住・環
境」と「科学技術」の両面にわた
ってかわる予定。
カナダ政府代表は外務省のジョ
ン・パウリス国際博部長、カナダ
館館長はブロンウィン・バスト女
史。



産業と文化の中心 オンタリオ州



日本の約三倍の面積（百六万九千平方キロ）。東西をケベック、マニトバ両州にはさまれ、北はハドソン湾から北極海に抜け、南は五大湖とその五大湖をへだてて米国の工業地帯に面する。沿岸にはトロント、ハミルトン、ウインザー、といったカナダ有数の商・工業都市が並び、ケベックとの州境にはカナダ連邦の首都オタワ、そして米加国境には世界一の観光地ナイアガラの滝。カナダの総人口の三五・四パーセント、工業生産額の五三パーセントを占めるオンタリオ州は、カナダの産業と政治、そして文化の中心である。

歴史

ちょうどいまから二百年前の六月、一団のボートがモントリオールを発ってセントローレンス川をのぼっていった。乗っていたのは、米国の独立戦争で英国側につき、今や難民と化して北上してきた忠誠派といわれる人たち——農民や商人、兵士、工芸家、狩人——であった。多くは米国生まれの英国系市民であったが、ドイツ系、オランダ系、あるいはイロクワ族インディアンなども混じっていた。目ざすはセントローレンス川の上流からオンタリオ湖の北岸にかけての一角である。英国は米国の独立戦争で十三州を失ったが、現在のラブラドルからケベック、オンタリオ両州の南部にまたがる一帯は、いまだその手中にあった。秋までに、およそ四千人の忠誠派やその家族、あるいは敗残兵が、モントリオールとオンタリオ湖の間のセントローレンス川沿岸、オンタリオ湖の北東岸、オンタリオ湖とエリー湖の間にあるナイアガラ川の西岸に落ち着いた。土地が比較的に安いこともあって、米国からの移住者はその後も相次ぎ、カナダ植民地（現在のケベック、オンタリオ一帯）の人口は一七九一年までには約三万人に達する。そしてその年、カナダ植民地は、フランス系住民を中心とするローワー・カナダ（今は今日のケベック州に相当）とオンタリオ湖北岸からエリー湖北岸にかけてのアッパー・カナダに二分される。このアッパー・カナダこそ、現在のオンタリオ州の前身である。

最初の忠誠派（王党派ともいう）たちがやってきた当時の面影は、今のオンタリオにはない。森は都市や工場地帯に変貌し、セントローレンス川や五大湖は大輸送網となり、産業も、農業や林業から重工業、製造工業へと比重が移った。



産業

オンタリオ州の発展の基礎は、その恵まれた資源と地理的位置にある。州の大半をおおう森林は、世界でも指折りのバルブ・製紙産業を生み、地下から掘り出される銅、ニッケル、プラチナ、ウラン、亜鉛、金、銀、石こう、鉄鉱石といった多種多様な鉱物資源は、州の産業の基盤となった。特にサドベリー周辺は、ニッケル、銅、プラチナなどの世界的な産地である。比較的温暖で肥沃な南部は、国内で

も有数の農業地帯。ナイアガラ半島ではぶどう、なし、りんごの栽培が盛んで、ワインも産し、西部はタバコ、スイートコーン、穀物、野菜の生産および酪農で知られる。

その豊かさと形から、黄金の馬蹄といわれるトロントからナイアガラに至る地域は、オンタリオだけでなくカナダでも随一の工業地帯。カナダの鉄鋼の約八割は、ハミルトンを中心とするこの一帯の工業都市で生産される。

オンタリオ州の発展は、もちろん米国と隣接していることによるところが大きい。ウインザーを中心とする自動車工業はその最たるものである。米加間の自動車貿易は、一九六五年の協定により完全に自由化され、自動車工業も両国の間で一貫した協同生産体制をとっている。（そのために、米国の自動車産業の浮沈が直接カナダに影響してくる。）

オンタリオ州はまた、コンピュータなど時代の最先端をいく高度技術の研究および産業でも知られる。特に連邦政府の研究所の多い首都オタワの近くにあるいわゆるオタワ・バレーには、大小のハイテク企業が立ち並び、さまざまな技術を生み出している。州ではハイテク技術を大きく重視し、昨年、マイクロエレクトロニクス、コンピュータ支援設計（CAD）および製造（CAM）、ロボット、自動車部品、食品加工、および資源開発機器に取り組み技術センターを設立した。こうしたさまざまな経済活動の中心は、州都のトロント。かつて活気のない町の

州都	トロント
州首相	ウィリアム・デビス（進歩保守党）
面積	一、〇六八、五八二平方キロ
人口	八、八八七、〇〇〇人（八三年十一月推定）
主要産業	製造（自動車、鉄鋼、石油精製、食品、その他）、建設、農業、鉱業、電力、観光

代名詞のようにいわれていたトロントは、カナダ最大の都市に発展した（人口約三百万）。今では北米第二の証券取引所であるトロント・ストック・エクスチェンジをはじめ、カナダの主要企業、銀行などが集中するカナダ第一の商業・金融都市である。

資源、電力供給、労働力、消費市場、輸送、資本——オンタリオ州はすべての条件に恵まれており、今後ともカナダ経済の牽引車となることは間違いない。それだけに、日本からの企業進出も約百十社と、カナダ十州の中では最も多い。大手商社や銀行、自動車等の販売会社などのほか、最近では三菱電機や本田技研が工場進出した。

文化

オンタリオ州はしかし、ただ産業だけの州ではない。ここはヨーロッパ、アジ



ウィリアム・デビス州首相

ア、中南米、アフリカと世界のあらゆるところからきたさまざまな民族が隣り合わせに住みついて独特のコスモポリタンの雰囲気醸成しだし（日系人もおよそ二万を数える）、伝統ある大学が軒を並べ、文学や音楽、美術、映画などの創作活動の本拠地でもある。カナダを代表する画家集団グループ・オブ・セブンが活動したのは、オタワからおおよそ二百キロ西にあるアルゴンキン自然公園だし、マーガレット・アトウッド、マーガレット・ローレンス、ロバートソン・デイヴィズ、モーリー・キャラハンといった著名な作家もオンタリオに在任して作品を書き続けている。オンタリオは、テレビ、新聞、雑誌、ラジオなどのメディアあるいは出版活動の中心でもある。

さらに、ナイアガラ・オン・ザ・レイクで毎年行なわれるショー・フェスティバル、毎年六月から十月まで開演されるストラトフォードでのシエータスピア演劇祭、トロント交響楽団をはじめとする音楽活動、カナダ・オペラやナショナル・バレエ団による地元公演と、一年を通じて質の高い舞台芸術が楽しめる。施設も、オキーフ・センター、ロイ・トムソン・ホール、マッセイ・ホール、ナショナル・アーツ・センター、国立美術館、ロイヤル・オンタリオ博物館……と、あらゆるものが揃っている。

製造業

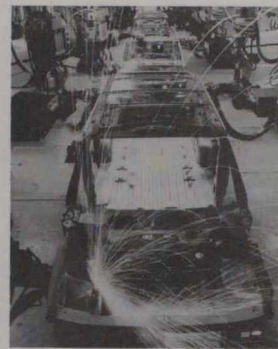
州総生産の七三％ 中心は自動車産業

オンタリオ州は、製造業の州ともいわれるように、工業（製造業）が最大の産業である。州内総生産の七三パーセントを製造業で占め、州民三人に一人がこの部門で働いている。

州北部で採れる豊富な資源を原料とし、電力、天然ガスなどの安価なエネルギーを使い、車で一日行程の範囲にある一人の消費市場（米国も含む）を相手にして、オンタリオ州南部を中心にさまざまな製造業が発達した。

その中で就業者数（約十二万人）、生産高（約千五百億ドル）とも群を抜いて多いのは、自動車産業である。州南部に

あるウインザー、オークビル、オシャワ、ブランプトン、ハミルトンなどの都市は、近代設備の自動車工場や部品工場が林立し、自動車王国といった感がある。カナダで生産される自動車とその部品の九割近くは、これらの工場で作られている。



ウインザーにある自動車組立工場。コンピュータ制御のロボットで溶接している。

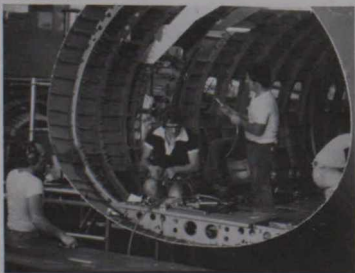
昨年カナダの輸出は、自動車関連がトップを占め輸出総額も大きく伸びたが、それをリードしたのが、オンタリオ州の自動車産業であった。こうした今日の隆盛のもとになったのは、一九六五年の加米自動車協定。この協定によってカナダと米国の間の自動車（部品を含む）貿易

は無関税となり、生産量・貿易量とも飛躍的に拡大した。
現在、オンタリオ州の自動車産業は、増産ブームにわく一方で、体質の強化改善に取り組み傾向が見られる。部品メーカーはCAD（コンピュータ支援設計）やロボットの導入に意欲を示し、また、日本の在庫管理方式を取り入れた生産・流通システムの合理化も多く見られるようになった。

自動車組立て工場は米国系資本が中心だが、部品産業はカナダ資本によるものが多い。最近では欧州からの直接投資も増え、例えばフランスのメーカーによるアルミ製ラジエーター工場の新設や、西独メーカーによる電気自動車用バッテリー工場の新設が四月に発表されている。日本のホンダが小型車生産工場を作るというニュースも、また耳新しい（別項参照）。
オンタリオ州の製造業としては、自動車のほか、金属（一次製品と加工）と食品も盛んである。出荷高（一九八〇年）では、金属一次製品が約七十三億ドル、金属加工が約五十九億ドル、食品が百二十億六千万ドル。食品は、野菜、果実、家畜、酪農など豊富な農産物を背景に多品種を加工している。セントキャサリンズのワイン、果実・野菜かん詰、キッチンナーの食肉加工が有名。

州製造業のなかで鉄鋼産業の重要性を見落すことはできない。生産高は全国の八割を占め、とくに高炉はオンタリオ州だけに集中している。カナダ鉄鋼産業のビッグスリーのうち二社が鉄鋼の町ハミ

デハビランド社の工場では組立てられる航空機。



とした仕事に従事しているし、トロント、オタワ、ミシソーガなどの各地でも、最先端の宇宙航空、情報通信企業が活躍し

オンタリオ州の

主な産業

資源、輸送、立地、マーケット——あらゆる条件に恵まれたオンタリオ州は、カナダの産業の中心だ。製造業、ハイテク産業、林産、食品加工、観光、金融、商業……と、さまざまな分野でオンタリオ州は一頭地を抜いている。

先端技術産業

生産高、全国の六割 航空、情報機器など

ルトンを拠点とし、建設、器具、金物を製造する企業の多くは、ハミルトン、バーリントンなどの近辺に集まっている。
以上のほか、オンタリオ州には機械、電気・電子機器、石油精製、石油化学、航空機などほとんどの重要産業が揃っている。注目すべきは出版印刷への就業者が多いことで、トロントを中心に文化産業が盛んなことを物語っている。

オンタリオ州は、カナダのハイテク産業でも、製造業以上に指導的役割を演じている。州のハイテク産業生産高は、全国の五九パーセントに及び、成長率は年平均五・三パーセントと高い。カナダのシリコン・バレーといわれるオタワ・カールトン先端産業地域では、二百数十社がプラントを構えて、一万四千人がマイクロエレクトロニクス（ME）関係を中心

ている。

州政府は、一九八一年に出した報告書のなかで、次の十年間に新技術（ME、通信、ロボット、CADとCAM、特殊材料、バイオテクノロジー）の利用が急速に進むことを指摘した。政府の政策も現在のこの線に沿って、単に研究開発（R&D）の段階から、その実用化と利用促進に重点を移しつつある。

そのための施策のひとつとして、政府はCAD/CAMやME、ロボットなど先端技術を研究・普及する六つの技術センターを設立した。これらのセンターは昨年頃から活動に入っている。

観光産業

年間六五億ドルの収入

多彩な名所と行事

国際色豊かな近代都市トロント、建国の歴史を秘める首都オタワ、英国の情緒を残す港町キングストン、モリスバーグの近郊にある十九世紀のカナダを再現したアッパー・カナダ・ビレッジ、雄大なナイアガラの滝、アルゴンキンなどの美しい自然公園——これらを訪れる観光客は、年間一億人にのぼり、オンタリオ州の観光産業は、製造業に次ぐ州第二の産業となっている。昨年は一億五百万人（そのうち二千二百万が米国人、約百万がその他の外国客）が、総額六十五億ドルの観光収入を州にもたらした。

州都トロントは、今年、市制百五十周

オンタリオ州主要産業の全国に占める比重(1979年)

産 業	出 荷 額 (100万ドル)	従 業 員 数 (1,000人)
自 動 車 (含部品)	13,440(88)	75.9(90)
鉄 鋼	4,788(81)	36.6(78)
石 油 精 製	3,957(32)	2.8(38)
一 般 機 械	2,775(64)	28.6(58)
食 肉 加 工	2,348(35)	9.8(38)
紙 ・ パ ル プ	2,233(24)	17.8(26)
工 業 化 学 (有機)	1,593(71)	4.9(13)
金 属 加 工	1,522(52)	13.2(60)
そ の 他 の 食 品 加 工	1,379(53)	7.3(54)
酪 農 製 品	1,317(30)	4.5(9)

()内は全カナダの生産に占める比重(%) 出所: Ontario Statistics 1982

年を迎えて、祭りの真最中。六月にはオペラ、バレエ、コンサート、演劇、セミナーなどを中心とするトロント国際フェスティバルが、一か月にわたって繰り広げられた。日本の前衛舞踏団山海塾も街頭出演して、市民や観光客から喝采を浴びた。トロントでは八月にカナダ・ナショナル・エグジビション（航空ショーなどイベント多数）やアジア・フェスティバル、十一月に農業祭など国内外からの客を魅きつける行事がまだまだ続く。そして九月十四日には、ローマ法王パウロ二世を迎えることになっている。

トロントが活気ある商いと生活の都市だとしたら、オタワは落ち着いた政治と文化の都市。国会議事堂の裏手に立つと、美しいオタワ川をはさんで対岸はもうケベック州である。市内には小さいながらも貴重な博物館がたくさんあり、国立アートセンター、国立美術館、あるいは世界各国の貨幣を造っているロイヤル・ミン

ト（造幣局）、広大なカナダ総督公邸など、首都ならではの観光名所が揃っている。春のチューリップ祭りから冬の雪と氷の祭典に至るまで、季節の行事にもたくさんの方がつめかける。

その他の都市では、毎夏のシエークスピア祭で有名なストラトフォード、バーナード・ショーを記念したショー・フェスティバルで知られる美しい町ナイアガラ・オン・ザ・レークなども、州の大切な観光地である。

今年、オンタリオ州に開拓の斧が入ってから二百年目。オンタリオ州には開拓の歴史をとどめる観光名所が多い。十九世紀の村と生活を再現した有名なアッパー・カナダ・ビレッジ、ドレスデンの「アングル・トムの小屋」博物館、ゴードリッチの開拓者博物館など数えきれないほどの博物館や郷土館がある。一風変わった



世界的な観光地ナイアガラの滝。

た所としては、近代文明を拒否してユニークな生活様式を続けているアナパテイスト信徒集団メノナイトが住むキッチンナー一帯も、オンタリオの歴史を感じさせる。

トロントのオンタリオ・サイエンス・センターは、参観者が展示物を実際に動かして学べる科学館として有名だが、最

近完成したサドベリー（カナダ随一の鉱業地）の科学館サイエンス・ノースも、鉱山の学習を中心にした、世界でも珍しい設計の文化施設である。

州の自然も、観光の宝庫だ。ナイアガラの滝は言うまでもなからう。モナーク蝶が美しいポイント・ピーリー国立公園、広大な野生動物保護区になっているアルゴンキン州立公園など、州南の自然は、多くの人々が憩う場所だし、ジェームズ湾（ハドソン湾）に臨む北の辺境開拓地ムーソニーや小型水上機でしか到達できない西北部のキャンプ地は、手つかずの自然の魅力をもった観光資源である。

農業

随一の混合農業地帯

畜産、野菜、果実が主

オンタリオ州の農業は、カナダで最もバラエティに富んでいる。農産物の種類は、穀物や畜産物、果実、野菜からタバコのような特殊作物まで、百種類にのぼっている。カナダとアメリカの大消費地を近くに控え、機械化された商業生産が早くから進んだことも、州農業の特徴である。

オンタリオ州の農業生産高は、一九七四年で約二十四億ドル。カナダ全体の二十七パーセントを占める。そのうち畜産と畑作物（野菜、とうもろこし、小麦、果実など）が全体のそれぞれ三分の一となっている。



ナイアガラ半島はカナダでも有数の農業地帯。

オンタリオ州には乳牛と肉牛が多い。酪農は、とくに州西部と東部で盛んであり、肉牛と養豚は西部が断然強い。州農地全体（約六百四十万ヘクタール）の六割以上が牧草や飼料用穀物の栽培に当てられ、飼料自給率は非常に高い。オンタリオは養豚でカナダ一であるほか、プロイラーと七面鳥の飼育も盛んである。果実栽培では、りんご、もも、洋なし、ぶどう、ラズベリー、いちご、さくらんぼが主体で、温暖なナイアガラ半島やオンタリオ湖、エリー湖周辺が産地として有名。生産高でみた主な野菜は、トマト、じやがいも、スイートコーン、豆類、たまねぎ、きゅうり、人参など。エセックス地区やケント地区などの州南西部が主産地となっている。

林業・鉱業・エネルギー

鉱産物ではカナダ一 電力も安くて豊富

オンタリオ州は、州土の七七パーセントが森林である。そのほとんどが州有林で、民間業者は州から免許を受けて伐採加工している。切り出し量は二千百三十

鉱業は州の基幹産業のひとつである。



要六金属の昨年の生産高は合計二十四億ドル。カナダの金属生産高の九割を占めた。しかし、エネルギー資源は、ウランを除いてはごく少ない。

オンタリオ州の繁栄には安い電力の存在が重要な役割を果たした。発電量はカナダ全体の三五・三パーセント。火力が六割以上を占めるが、原子力の利用も盛んで、特にトロント近郊のピカリング発電所は、世界最大の商用原子力発電所として知られる。

本田技研がカナダ進出 八七年から小型車生産

本田技研工業が、八七年からオンタリオ州のアリントン近郊で小型乗用車の生産を始めることになった。日本の自動車メーカーがカナダに工場進出するのは、これが初めてである。

計画によると、工場が建設されるのはトロントの北西約二十キロにあるアリントン（インシュリンの発見者バンティングの生誕地）の近郊。すでに確保してある約百八十二万平米の敷地に、溶接・塗装工程を含む最新鋭の一貫生産工場（約四万五千平米）と事務所を建て、八七年初めから生産態勢に入る予定。

生産規模は、初年度一万九千台。八九年までに年産四万台に引き上げる計画。車種は当初「アコード」でスタートし、のちに「シビック」を加える。

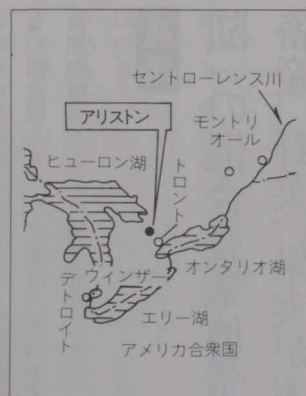
従業員は、フル稼働時に三百五十人の予定。用地、建物、設備を含めた総投資額は一億カナダドル（約百七十七億円）。当面はエンジンなどの主要部品は日本から送るが、徐々に現地調達率を高めていくという。

本田技研は、投資の一環として、生産される乗用車にカナダ製部品を多く取り入れるだけでなく、カナダの部品メーカーが技術・能力を一層伸ばせるように助力するため、自動車部品供給

開発プログラムを創設することになった。開いている。

本田技研のカナダ進出は、日本の自動車メーカーの対加投資を強く希望していたオンタリオ州および連邦政府が大歓迎。発表も、同社の久米社長とラムリー通産大臣がオタワで共同記者会見を開いて行なった。

その中でラムリー大臣は、「カナダにおける本田技研の事業が急速に成長して、生産能力を高め、直接または間接的にもっと多くの雇用を創設するものと信じている」と述べた。またオンタリオ州のミラー産業大臣は、本田の



決定は同州の自動車部品製造工業の強さおよび北米自動車産業に占める同州の戦略的位置の良さを反映したものだ、と語っている。

なお本田技研工業は一九六九年、オンタリオ州スカバラに現地法人ホンダ・カナダ社を設立、同社製の二輪車、四輪車、汎用製品を輸入・販売している。バンクーバー、トロント、モントリオールなどに支店があり、従業員も三百五十人にのぼる。

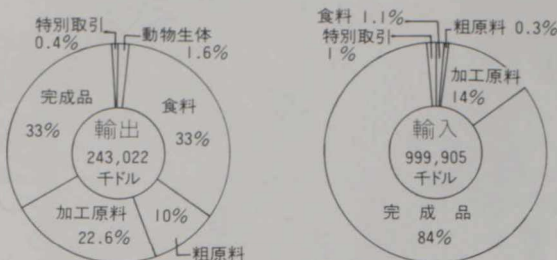
日本とオンタリオ州

進む貿易と産業協力

カナダに進出する日本企業は、トロントを中心としたオンタリオ州に本陣を構えることが圧倒的に多い。日本企業のカナダ現地法人二百六十余社のうち、百十社がオンタリオに設立されており、今年

はさらに数社増える見込みだ。

これは、オンタリオ州がカナダ最大の市場であるだけでなく、電力など資源が豊富で政治・経済・産業の中心であり、しかもすぐ隣りにシカゴ、バッファローといった米国の主要産業・消費都市を控え、またニューヨークなどの大都市とも近いという地理的位置のためである。在加



オンタリオ州の対日貿易(1982年)

オンタリオ州通産省統計

日本大使館(オタワ)をはじめ、総領事館(トロント)、日本貿易振興会事務所などが所在していることも、オンタリオ州が東京に代表事務所をおいていることと併せて、オンタリオ州と日本との関係の重要性を示している。オンタリオに進出している日本企業の大半は輸出入業務の

会社だが、ここ十年間を見ると、製造工業が増えたのが目立つ。資源関連企業の多い西部カナダとは対照的である。

一九七二年に松下電器がカラーテレビ

三菱電機のミッドランド工場。



の現地生産を開始して以来、富士通(コンピュータ周辺機器)、東洋ベアリング(ボールベアリング)、村田製作所(電子部品)、トミー(玩具)

など十数社がトロント周辺で生産を続けている。昨年操業を始めた三菱電機のカラブラウン管工場(ミッドランド)は、米資本のRCAが撤退した後を引き受けたもので、失業中の元従業員をほぼそっくり受け入れ、評判になった。

そして今年四月に発表された本田技研の小型車生産計画(前頁参照)は、自動車産業での日本とオンタリオ州との新たな協力関係を示したものだ。

貿易関係でも、日本は重要な位置を占めている。オンタリオ州の八二年の対日輸出は二億四千三百万ドルで、州総輸出の〇・七パーセント。輸出品はニッケル、木材、ナタネ類、食品が中心だが、金額としては完成品(通信機器、事務機器、

医薬品関係)の割合が食品に次いで高く、三割以上を占めている。

対日輸入額は、州輸入全体の二・六パーセントに当たる十億ドル。完成品(自動車、電気製品、繊維、化学品、鉄鋼製品等)が、全体の八四パーセントを占める。

日加貿易は、資源輸出を中心としてカナダ側の黒字が続いているが、オンタリオー日本間の貿易に限って見れば、オンタリオ州の圧倒的入超。このアンバランスを少しでも是正しようと、州政府はエレクトロニクスや消費財の展示会を日本で開いて対日輸出促進を図っている。ノーサンテレコム社が電電公社と交換機やプ

トロントの日系人社会

オンタリオ州は、日系カナダ人が最も多く住んでいる州でもある。州内の日系人は約二万。その半数以上がトロントとその周辺に住んでいる。

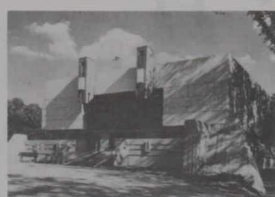
日系人は戦前、主にプリティッシュ・コロンビア州に住んでいたが、戦時中カナダ政府によって内陸部に強制移住させられた。戦後になって次第にトロント周辺に集まり、苦勞しながら現在の生活と地位を築いたのである。

カナダの日系人は、戦前のように日本人街を作って集中居住するということはせず、一般カナダ人社会の中に完全に融け込んでいる。日系人としての活動は、なかなか活発

ツシュホンの調達契約を結んだように、最近ではハイテク製品の対日輸出が増え始めた。

このように、企業進出にしても、また貿易にしても、オンタリオ州は資源偏重の西部カナダとはきわだつた違いを見せている。日本の対加自動車輸出などが西部カナダで問題とならずに、オンタリオ州で問題となるのは、こうした産業基盤の違いによるところが大きい。

しかし、オンタリオ州のもっている可能性からすると、今後日本と同州の間で貿易および産業協力がますます進展することは間違いなさそうである。



発行されている。トロント市内から車で三十分、せせらぎが流れる林を背に、日系文化センター(写真)がある。二世建築家

レイモンド森山の設計で一九六三年に完成したセンターは、各種の講演や茶華道、柔・剣道など多彩な日本文化紹介事業を行っており、日系人だけでなく、一般カナダ人の参加者も多い。

ターナー新首相 横顔と政策

ジョン・ターナー氏がカナダの第十七代目の首相に就任した。かつてトルドー政権のもとで法務大臣兼検事総長や大蔵大臣をつとめ、自由党の「ゴールドン・ボーイ」といわれながら、一九七五年、突如同内閣を辞任して野に下ってから、九年目の復活である。

党首選には八人が立候補。ターナー氏を除くあとの七人は、すべてトルドー内閣の現閣僚で、しかも現職の議員でないのはターナー氏だけ。六月十六日に行なわれた選挙では、一回目の投票でターナー氏が一位（二位はクレチエン・エネルギー大臣）となったが、過半数に達しなかったため、上位三人による決戦投票となった。二回目の投票でターナー氏が五四パーセントを獲得、党首に選ばれた。その二週間後の六月三十日、トルドー氏が首相を辞任するとともに、ターナー政権が発足した。

新政権の陣容は、トルドー前内閣をほとんどそのまま引き継いだ形になっている。トルドー内閣三十七人のうち十三人は退任、新たに五人の新顔が加わって、閣僚の数は八人減の二十九人。数人の閣僚は、いくつかのポストを兼任している（別表）。ターナー氏は、一九二九年六月七日、英国で生まれた。ジャーナリストだった

父親はターナー氏が幼少のころに死亡、母親はターナー氏と妹のブレンダさんをつれてカナダに帰る。

カナダで彼は、第二次大戦時のマッケンジー・キング政権のもとで重要な官僚ポストを歴任した母親の手で、将来大物になるべく育てられた。母親は一九四五年にバンクーバーの企業家フランク・ロ



勝利を喜ぶターナー新首相とジル夫人。

ス氏と再婚する。それによって、ターナー家は政財界とのつながりができた。当時ターナー氏は、まだ十代ながら政治の世界に強く魅せられていたという。

ブリティッシュ・コロンビア大学で政治学を勉強したあと、ロース奨学金を得てオックスフォード大学で法学と民法を学ぶ。一年間パリでフランス語を磨いたあと、カナダに戻って法学の勉強を続け、弁護士資格を取得。

当時から好男子で、一九五八年にフランク・ロス氏がマーガレット王女のために開いたパーティーで彼女と踊ったことから、ロマンスの噂が流れ、ターナー神話が生まれた。六二年には下院議員に初当選、三年後に再選されたときは早くも閣僚に選ばれている。

六八年の自由党党首選ではトルドー氏に敗れたが、トルドー政権のもとで消費者・企業問題大臣、検事総長兼法務大臣、そして七二年には大蔵大臣に就任した。しかし、ターナー氏は、トルドー首相の後任といわれながら、七五年、突然蔵相を辞任する。原因は、トルドー首相との経済政策をめぐる意見のくい違いとも、性格の不一致ともいわれる。

野に下ったターナー氏は、以来、トロントで企業弁護士として活躍。ベクテル・カナダ、シーグラムなど、およそ十社の役員でもあった。（これらは、首相就任とともに辞任した。）

ターナー新首相は、まだ具体的な施政方針を明らかにしていないが、党首選のときの発言では、失業対策と対外政策を最重要目標に掲げるとともに、次のような見解を表明している。

一、貿易 政府が積極的にでていって、輸出市場を開拓する。公正かつ自由な買

トルドー前首相に平和賞

東西対話の再開や核軍縮などを訴え続けてきたトルドー（前）首相に、一九八四年度アルバート・アインシュタイン国際平和賞（五万ドル）が贈られることが決まった。授与式は十一月三日、ワシントンで行なわれる。

アインシュタイン国際平和賞は、核時代における戦争の恐ろしさを訴えた故アインシュタイン博士の遺志をいかして、個人の平和努力への業績を評価し、また今後の努力を奨励するために贈られるもので、これまでに、ジョージ・ケナン元駐ソ米国大使、ロバート・マクナマラ元米国防大臣、シカゴのジョセフ・バナーディン大司教などが受賞している。

平和・安全保障研究所 カナダ政府が設立へ

国防や軍備制限、軍備縮小など、世界平和に関する諸問題について国民の論議を深めるため、カナダ政府は国際平和・安全保障研究所を設立することになった。

これはトルドー前首相が昨年末から今年初めにかけて世界各国の指導者に対して行なった平和提言を受けたもので、平和や安全保障に関する問題について国民の知識を高め、また論議を活発にするのが目的。

カナダと日本で 文化行事がいっぱい

カナダ観光年ということもあって、今年のカナダはさまざまな行事がめじろ押し。今年から来年にかけて、日本でもカナダ芸術家による公演や展示会が数多く予定されている。

日本では、6月のカナダ・グラン・バレエおよびネクサスの公演に続いて、アルバータ州現代美術展がすでに千葉と東京での巡回を終え、8月11日から12日まで札幌市の札幌アートプラザで開催される。

9月から10月にかけては、アントン・ケルティのピアノ・リサイタル、ギター奏者リオナ・ボイドおよびソプラノ歌手ローズマリー・ランドリーの公演、10月には一昨年死亡した天才ピアニスト、グレン・グールドについての映画・講演会が行なわれる。

来年2月は、有名な具象画家アレックス・コルビルの作品展（東京都庭園美術館）が開催される。その後も、テノール歌手ブルーノ・ラプランテ、天才少女チェリストといわれるオーフラ・ハーノイ、バンクーバー交響楽団の来日などが予定されている。

カナダでは、ジャック・カルチエ来航450周年に関連した帆船祭、競艇、国際ヨットレースなどが、カルチエの立ち寄った大西洋沿岸からセントローレンス川沿岸にかけて繰り広げられているが、そのほかにも、オンタリオ州とニュー・ブランズウィック州では開基200年祭、トロントは150年祭、カルガリーは100年祭——と行事がいっぱい。



ナイアガラ・オン・ザ・レイクで開催される恒例のショー・フェスティバルでは、バーナード・ショー自身の作品「悪魔の弟子」および「アンドロクレスとライオン」に加えて、ノエル・カワードの「私生活」と「渦巻」、ソートン・ワイルダーの「危機一髪」などが上演されるほか、ジョージ・オーウェルの「1984」が特別上演（9月18日のみ）の予定。

北米随一のシェークスピア劇として有名なストラトフォード劇場（オンタリオ州ストラトフォード）は、名優ブライアン・ベッドフォード、ジョン・ネビルなどによる「ロメオとジュリエット」や「真夏の夜の夢」（写真）、上演3年目に入る「ミカド」および初演の「アイオランシ」、昨年好評を博した「ゴンドリエ」を組んでいる。期間は6月から10月末まで。

またトロント（9月23-28日）とモントリオール（9月28-10月2日）では、トップレベルの合奏団やソロイストによる国際的な音楽祭「ワールド・ミュージック・デイズ」が開催される。

カナダ・ナショナル・バレエは、11月、トロントのオキーフ・センターで「コッペリア」「4つの気分」「くるみ割り人形」などを上演する。

さらに来年は、バッハ生誕300周年を記念して、アルバータ州エドモントン（3月-4月）でバッハ国際音楽祭、トロント（5月）で国際バッハ・ピアノ・コンテストが開催される。

ターナー内閣の主な顔ぶれ

首相 ジョン・ターナー

副首相（兼外務） ジャン・クレチエン

大蔵 マーク・ラロンド

エネルギー・鉱山・資源 エネルギ・鉱山・資源

ジェラルド・リーガン

国際貿易担当 フランシス・フォックス

地域産業開発（兼通信、科学技術担当）

務、カナダ開発投資公社担当大臣）

エドワード・ラムリー

法務（兼検事総長）

ドナルド・ジョンストン

運輸（兼カナダ小麦局担当、カナダ港湾

地域管理公社（エキスポ86）担当、北

方パイプライン開発公社担当大臣）

ロイド・アックスワーシー

カナダ枢密院議長（兼経済・地域開発担当）
当国務、労働、カナダ郵便公社担当大臣）

アンドレ・ウエレ

雇用・移民 ジョン・ロバート

農務 ラルフ・ファアガソン

国防 ジャン・ジャック・ブレ

海洋漁業 ハーブ・ブロー

保健・厚生 モニク・ペガン

環境 チャールズ・カッチャ

消費者・企業問題（兼社会開発担当）
国務、

女性の地位担当大臣）

ジュディ・エローラ

国務長官 セルジュ・ジョヤル

上院院内総務 アラン・マケツカン

予算局長官 ハーバート・グレイ

易を追求する。分野別自由貿易には、原則的に賛成。カナダは貿易相手国との条約を再検討すべき。

一、外交 さまざまな状況をカナダの視点からみて、主体的な外交政策を展開する。対米関係はより協力的なものにしたい。大西洋の方向にだけ目を向けていた時代は終わり、今後はアジアおよび環太平洋地域を重視しなければならない。

一、国防 カナダは同盟内における軍事約束を履行すべき。その範囲については検討する。

一、軍備縮小 カナダでの巡航ミサイル実験を認めることは、条約を結んでいるヨーロッパおよび米国に対する義務である。カナダは、北大西洋条約機構（NATO）や英連邦の一員であり、また米

国の友邦であることにより、（これらの

機構や国に対して）発言権を得ることになる。カナダはトルドー前首相の政策を継いで、世界の緊張緩和を求めていかねばならない。

一、雇用 技術が職場でいかされるように、訓練、再訓練計画を拡大して、若年労働者の失業問題に対処する。州政府、経済界、労働界にも呼びかけて、若年労働者を対象に全国的な研修計画を実施する。

一、所得維持 経済政策は、失業者、貧困者、高齢者などを犠牲にしないやり方で実施する。

一、女性 連邦政府機関においては、等価の仕事には同等の給与という原則を完全に実施する。

カナダ便り

転換期のカナダ経済

小林 豊彦

もちろんである。

カナダ経済は八一年、八二年と続いた深刻な不況から、八三年には立ち直り、現在は景気拡大の局面を迎えている。八二年度に続出した企業の赤字決算も、八三年度には一転して、増収増益に変わった。カナダ統計局の五月下旬の発表では、企業の税引き後利益は、この第一四半期が、前四半期に比べ三％も増加し、企業の増収増益基調が依然続いていることを示している。

いるように思える。

たとえば、日本は現在軽薄短小、省エネの時代である。資源節約型、資源消費少量型の産業の時代でもある。

こうした時代の到来は、カナダ経済の強力な武器だった天然資源の市場を小さくする。需要が縮小するか、増大速度が落ちてくれば、資源国同士の販売競争が激化するのもこれまた明らかである。主要先進国の景気が回復した現在も、カナダの鉱山業界に、増産投資はおろか、不況で閉鎖した鉱山再開の動きがきわめて鈍いのも、こうした資源需要国の構造変化にあるといえよう。

天然資源といえども、競争の時代を勝ち抜くために、コスト削減、生産性の向上が欠かせない。カナダのこの面での対応がこれまで甘かったのではないだろうか。八三年のカナダの労働生産性は大きく向上したが、景気の回復

期に生産性が上がるのは当然の結果だ。オンタリオ州のミラー産業大臣は、最近労働者や組合の幹部までが、生産性に対して強い意識を持ち始めている、と語る。問題は、その意識を今後も持続し、さらに高められるにかかっている。

資源産業が、今後ともカナダの基幹産業であることは変わらない。この基幹産業が本当の実力を備えたときには、再びカナダ経済に力強い建設の足音が聞えてくる、と言えないだろうか。

カナダ経済、産業のいま一つの弱点は、製造業部門が弱いことである。米

国のビッグスリーのカナダ法人が構成する自動車産業、ステルコ、ドファスコなどの鉄鋼業、いまや世界最大の實力をもつアルカン社のアルミニウム産業、新聞用紙、バルブ産業、それに最近ではノーザンテレコム社に代表される通信機器産業など、カナダの世界に誇る製造業はいくつかある。

しかし、まだその裾野は狭い。人口二千五百万人というカナダの市場規模からいって、これはしかたのないことかもしれない。カナダ経済にとってアルカン型企業がたくさん誕生することが最も望ましいことだが、そこまできなくとも、自動車産業、通信機器産業をみると、製造業振興の一つのキギがあるように思える。

両産業とも、世界最大の市場である米国市場をターゲットとすることで大きく変わった。ノーザン社の今年の売上高の六割は、米市場で占めると予想されている。カナダ五大銀行のある首脳は、「米加共同市場構想」がカナダ経済が強くなるキーポイントの一つと語っていた。これはトルドー政権のカナダ化政策とは正反対の道である。

友人のカナダ人記者は、「トルドー首相は好きじゃないが、カナダ化政策は必要であり賛成だ」という。しかし、米国抜きのカナダ経済は現在考えられないだけに、ターナー新政権が、対米関係でどう舵取りするか、注目される。

(日本経済新聞トロンント支局)

二年間のカナダの生活や取材の中から得た知識、情報から、最近痛切に感じていることがある。月並みの言葉で表現するなら、カナダ経済はまさに転換期、正念場を迎えている、ということである。

赴任して一年間は、カナダは天然資源に恵まれた豊かな国、バラ色の将来が約束されている国——というイメージを持ち続けていた。しかし現在は、バラ色の未来が約束されているかどうか、疑問がでてきている。

この疑問が、日本という尺度、日本の産業界取材が長かった一人の新聞記者の尺度からみた疑問にすぎないことは

輸出も対米輸出を中心に引き続き好調だ。カナダ政府や銀行、民間経済調査機関は、八四年の実質経済成長率は

速度は鈍るものの上昇局面は変わらず、年間三〜四パーセントの安定成長を達成できる、と予測する。依然一パーセント台と一向に低下の兆しをみせない失業率を除けば、カナダ経済は蘇生している。しかし、筆者にはカナダ経済の景気回復の腰の弱さが気になってしかたがない。

独占と偏見を恐れずにいうなら、腰の弱さの原因の一つは、第一次石油危機以後の世界の変化が、カナダが予想した以上に急激だったことに起因して

ブリティッシュ・コロンビアの誕生(下) 鉄道と引換えに連邦加盟

ゴールド・ラッシュが起こって、米
国から何千人もの男たちが国境を超え
てやって来るのに驚いたバンクーバー
植民地のダグラス総督は、当時バンク
ーバー島以外には何の権限もなかった
が、米国による併合を恐れて、英本国
の訓令を待たずにただちにいくつかの
手を打った。

ダグラスはまず、一帯で発見される
金はすべて英国国王に属すると宣言し
て、採鉱者一人当り毎月五ドルの料金
を課すとともに、すべての人々は英国
の法律に従うよう、警告を発した。

一八五八年八月、バンクーバー島を
除く一帯はブリティッシュ・コロンビ

ア植民地となり、ダグラスは正式に新
植民地の総督を兼ねることになる。判
事と警察部長も着任し、これで一応
「法と秩序」が確立された。

ダグラスはまた、道らしい道もなか
った山中に、馬車の通れる道路を建設
した。新しい道路を、荷馬車や駅馬車
が人や物資を積んで町から町へ運び、
牧場の牛が群れをなして歩いていった。

ゴールド・ラッシュは、あつという
間にやってきたかと思うと、あつとい
う間に去っていった。金脈を掘りあて
て財をなした者もいたが、大ていの場
合はせっかく手に入れた金を賭けごと
などで失い、好運は長続きしなかった。

ビリー・パーカーがビクトリアで死ん
だときは一文なしだったし、ジョン・
キャメロンはオンタリオで全財産を失
い、もう一度の夢をたくしてパーカー
ビルへ戻ってきたが、失意のうちに死
んだ。せっかくひともうけても、末
路は餓死という場合もあった。

しかし、確実に残ったものも多い。
ゴールド・ラッシュが去ってからも、
それに続いて起こった商業、農業、牧
畜業、漁業、製造業などは、ブリテイ

ッシュ・コロンビアの産業の基盤を作
った。川沿いにできたいくつもの町の
中には、ゴースト・タウンと化したの
もあったが、パーカービルやニュー・
ウエストミンスターなどのように、そ
の後栄えたところも多い。

とはいえ、金鉱に依存しきっていた
バンクーバー、ブリティッシュ・コロ
ンビア植民地は、金がとりつくされる
頃になると、財政的な困難に陥った。

そこで、英国政府は一八六六年、両植
民地を合併して、ブリティッシュ・コ
ロンビアに統合する。

ブリティッシュ・コロンビアが不況
を訴えていた頃、東部の英領植民地で
は連邦結成が進められていた。そして
一八六七年、カナダ、ニュー・ブラン
ズウィック、ノバ・スコシアの三州は
結集して、自治領カナダが発足する。

(連邦結成後、カナダ州はオンタリオ
州、ケベック州に分割)。

米国では、ブリティッシュ・コロ
ンビアを併合して、米国の領土をア
ラスカと地続きにすべきだ、との声が高
まっていた。グラント大統領は、ブ
リティッシュ・コロンビアまで鉄道を
延ばせばそれだけで併合できるので
ないか、と議会で述べている。

ブリティッシュ・コロンビアでも、
不況から脱するには、カナダまたは米
国との連合しかないという論議が起こ
っていた。一八六九年には、米国との
合併を要請する文書が米国政府に送ら

れたが、署名したのはわずか
百四人だった。

一方、新聞発行者で、
熱烈な君主制支持者だ
ったアモール・デ

・コスモス(「宇宙
を愛する人」と称
したビル・スミ

スやハドソン
湾会社の関
係者の中
心に、カ

ナダ連邦加盟
への動きが活発化した。

発足したばかりのカナダ連邦政府は、
「海から海へ」の夢を実現すべく、閣
僚の一人ヘクター・ルイス・ランジェ
ピンをブリティッシュ・コロンビアに

派遣。ランジェピンは、ブリティッシ
ュ・コロンビアの美しい風景に感激し
つつ、同植民地が連邦に加わるならば
鉄道を太平洋側まで延長すると約束し

た。ロッキー山脈をこえて、カナダの他
の地域と連結しようというわけである。
ブリティッシュ・コロンビアは、こ
の約束にひかれて、連邦加盟を決意す

る。連邦に加わったのは一八七一年七
月二十日であった。一八八五年十一月
には、モントリオールからバンクーバ
ーまでのカナダ太平洋鉄道が完成(実
際の通過は翌年)、ブリティッシュ・コ
ロンビアは名実共にカナダ連邦の一員
となった。(Y)



カナダ人物記①6

女性で初めて総督になった

ジャンヌ・ソーベ

カナダの元首はエリザベス女王である。しかし女王はイギリスに住んでいるため、カナダ人の総督がその代理として、外国の元首を迎えたり、内閣の助言に従って議会を招集したりする。

カナダのいわば象徴であるその総督に、初めて女性選ばれた。ジャンヌ・ソーベ、六十一歳。四年前、カナダで初の女性下院議長になった人である。

＊

ジャンヌ・ソーベは一九二二年四月二十六日、サスカチュワン州の小村で、フランス系の建築業者の家に生まれた。三歳のときオタワに出て、カトリック系の学校に学ぶ。学生時代は、社会と宗教界の改革を叫ぶ急進的なカトリック青年組織の活動に没頭。二十歳でモントリオールへ移り、同組織の全国議長となる。

このモントリオール時代に、夫のモリスをはじめ、ラロンド(現蔵相)、ペレチエ(現国連大使)、ルデボワール(現在のケベックの自由党リーダー)と知り合う。二十六歳で結婚して、夫婦で欧州へ遊学。

一九五二年に帰国してからのジャンヌ・ソーベは、CBC(カナダ放送協

会)で放送ジャーナリストとしてデビュー。英仏両語を流暢に話し、インタビューに、時事解説に、またパネル討論にと、多才を発揮する彼女は、カナダの最良のジャーナリストに数えられた。

三十七歳で長男を産んだが、子守のかたわら原稿を書き上げ、そしてスタジオに駆け込む日々が続いた。生活は決して楽ではなかった。

夫が連邦政界に入ると(一九六一年)、政治家の妻は公正なジャーナリストたりうるかと疑う周囲の目が、ソーベの活動を陰に陽に制限した。



ジャンヌ・ソーベ総督

のちに夫が民間に転出すると、夫と同じ企業グループだという理由もあって、彼女の転職の口が破談になった。

「夫の職業のせいで妻に仕事の機会が与えられないなんて、間違ってます」と、彼女は当時怒っている。

一九七二年、夫の勧めで連邦下院議員選挙に立候補して当選、ソーベは第二の職業人生に踏み出した。ただちにトルドー内閣の科学技術大臣に任せられ、二年後に環境大臣、さらに翌年に通信大臣を歴任、一九八〇年には初の女性

下院議長となっている。

三度の閣僚職を難くこなしたソーベにとって、下院議長時代はかつてない試練のときであった。彼女が議長に就任した時期は、自由党が政権に返り咲いたばかりで勢力が安定しておらず、議会運営の最も難しい時期であった。

ソーベは、議会運営については全くの素人で、ルールを知らないうえに議員の名前もなかなか覚えられない。おまけに女性であることも手伝って、野党の議長攻撃や嫌がらせがしつこく続いた。一九八二年には、野党は国家エネルギー法案の審議を拒否して欠席戦術に出、議会は十五日間も空転した。しかしソーベは、議長の強権発動による事態の収拾を拒否し、各党間の話し合いによる解決を主張して譲らなかつた。ソーベ不信の声が高まった。

彼女はその間、議事規則や先例を研究し、運営ルールの変更を提案。また、職員員の綱紀粛正や質素化などの改革を一つ一つ実現していった。サタデー・ナイト誌は八三年五月に書いている――

「ジャンヌ・ソーベは議長には不向きな女性だが、任期を終える頃には、議事堂内をすっかり変えているに違いない」まさにその通りになった。結局彼女は、忍耐強さ、努力、エレガンスの堅持で、国民みんなの尊敬を得たのである。彼女に対していつもは批判的な人たちも、ソーベの総督就任を心から祝ったという。

編集後記

●カナダに新首相が誕生しました。英語圏カナダとフランス語圏カナダの融和に心をくだいたトルドー首相に代わって登場したターナー氏は、対米関係の強化や国内経済の立て直しを重視する現実主義者といわれています。新しい首相のもとで、カナダはどのような歩みを見せるでしょうか。

●新内閣の発足とともに、連邦議会は夏期休暇に入りました。総選挙も控えていますので、ターナー政権の政策が具体的に明らかにされるのはその後になるはずですが。

●なお首相の座を下りたトルドー氏は、しばらくはモントリオールで子供たちと一緒に過ごす、将来についてはその後で決める、と述べています。

●昨年のブリティッシュ・コロンビア州特集に続いて、今回はカナダの経済・文化活動の中心オンタリオ州をご紹介します。ケベック州と並んで、歴史的にもまた政治的・経済的にもきわめて大きな存在です。(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三三三八

カナダ大使館広報部